

CONTENTS

本書のはじめに	2
著者略歴	6

PART 1 根管治療の基本

CHAPTER 1 なぜ病気・病変が生じ、そして治せるのか？ 8

1-1 大きな根尖部病変は治りにくい？	8
1-2 複雑な根管系	10
1-3 究極の根管拡大・形成とは？	11
1-4 軟組織と硬組織を同時に扱うと、危うさ・怖さをともなう	13
理解を深める reference 1 非外科的な再根管治療は有効か？	15
column 1 歯内療法の暗黒時代	16

CHAPTER 2 病変の原因を見誤らない ——病気(病変)にどう立ち向かうか？ 17

2-1 診査・診断を見誤らない	17
2-2 原因歯がわからない	19
2-3 サイナストラクトと紛らわしい類似病変	22
理解を深める reference 2 歯源性ろう孔に関するコホート研究	27

CHAPTER 3 清掃・拡大剤・洗浄操作法の有効活用 28

3-1 次亜塩素酸ソーダをうまく使うには？	29
3-2 EDTA 製剤をうまく使うには？	30
3-3 超音波洗浄をうまく使うには？	31
3-4 negative pressure irrigation	32
理解を深める reference 3 米国歯内療法専門医が行う根管洗浄法とは？	35

CHAPTER 4 根管消毒剤をどう生かす？ 36

4-1 根管消毒剤の選択基準は	37
4-2 なぜ水酸化カルシウム製剤の貼薬か？	37
4-3 薬(クスリ)は逆にリスクにもなる	39
理解を深める reference 4 抜髄治療後に発現した根尖部病変と不快臨床症状—— 「1回治療」と水酸化カルシウム貼薬「2回治療」を臨床的に比較検討すると？	43

PART 2 エンドのトラブル

CHAPTER 5 治療しても痛みがとれない！	46
5-1 抜後の痛みは心配ない？	46
5-2 オーバーインストゥルメントが考えられる	48
5-3 発見できない根管が疑われる	50
5-4 消えない痛みが不明	52
理解を深める reference 5 急性の口腔顔面領域の疼痛に対する鎮痛 ——その対策法は？	55
CHAPTER 6 滲出液・排膿が止まらない	56
6-1 少量持続する根管滲出液	57
6-2 多量持続する根管滲出液	59
6-3 大量でどうしても止まらない根管滲出液	61
さらにくわしく！ 「根管内チューブ療法」の臨床	66
理解を深める reference 6 大きな根尖部病変に対する根管内チューブ療法とは？ ..	70
CHAPTER 7 根管が極端に狭窄・石灰化して、拡大・形成が 難しい	71
7-1 根尖周囲病変を認めるが、器具が到達しない	72
7-2 根管の入り口が見つからない	75
7-3 歯根側方部位に病変が認められる	77
7-4 どうしても根管拡大・形成が不可能	79
理解を深める reference 7 根管の狭窄・閉鎖——診断と治療方策とは？	82
column 2 上顎側切歯を徴する歯科医師は、エンドを徴する	83
CHAPTER 8 パーフォレーションしてしまった	84
8-1 根管治療(非外科的)で対処した歯根穿孔歯	85
8-2 非外科的ならびに外科的歯内療法を併用して対処した歯根穿孔歯	88
8-3 外科的歯内療法で対処した歯根穿孔歯	91
理解を深める reference 8 歯根穿孔——分類と治療選択とは？	95
CHAPTER 9 器具の破折が認められた	96
9-1 根尖から突出した破折器具	97
9-2 上顎小臼歯部に生じる器具破折	99
9-3 破折器具が上顎洞に侵入した	102
理解を深める reference 9 ニッケルチタン(Ni-Ti)製根管拡大小器具の破折片を 除去するには？	107
column 3 Ni-Ti ファイルによる根管拡大は歯根破折を招く	108

CHAPTER 10 根管充填が難しい	109
10-1 根管が太く、不規則である	110
10-2 複雑根管(融合歯)への対処	112
10-3 歯根内部吸収歯	115
理解を深める reference 10 臼歯部根管充填で、側方加圧法と単一ポイント法を 比較検討すると?	120
column 4 根管シーラーの必要性	121

PART 3 エンドの予後観察

CHAPTER 11 再根管治療の長期経過	124
11-1 痛みと腫れがなかなか消えない	124
11-2 大きな根尖部病変	128
11-3 根尖部病変が何年も経って再発する	131
理解を深める reference 11 根管象牙細管に残留した細菌の運命と役割は?	137
本書のおわりに	138
APPENDIX さくいん	139